

平成 28 年度

第 2 回印西市景観計画等策定委員会

景観形成の基本目標の検討経緯

平成 28 年 1 月 1 日 (火)

■景観形成の基本目標の検討経緯

第1回庁内幹事会からの景観形成の基本目標に係る検討経緯について以下に示します。

第1回印西市景観計画等策定庁内会議幹事会（平成28年6月17日）

●本幹事会にA～C案を提示し、意見交換及び候補案の選定を行いました。

A案（テーマ協働）：みんなでつくる、美しく住み続けたいまち いんざい

B案（テーマ特徴）：「自然」と「都市」をつむぐ、うつくしいまち いんざい

C案（テーマ保全・創出）：「自然」や「歴史・文化」を尊重し、安らぎを創造する いんざい

●意見交換では、A案に関して『「印西市景観施策の基本方針」の方向付けの「守る、創る、育てる、規制する」や景観法第四条～第六条の各組織の責務に関わる内容は協働に繋がること』、『自然や歴史はあたり前にあるもので、個別の内容の印象を受けること』から、A案を幹事会の候補案にすることとなりました。

●また、『「…住み続けたい…」の“住む”をひらがなにすると、“生物が棲む”や“空気が澄む”など広義に捉えられる』という意見が出されたことから、それを反映し、以下A案改を策定委員会に示す候補案としました。

A案 みんなでつくる、美しく住み続けたいまち いんざい

意見の反映

A案改（候補案） みんなでつくる、美しくすみ続けたいまち いんざい

第1回印西市景観計画等策定委員会（平成28年6月27日）

●本策定員会にて、景観形成の基本目標の候補案等について検討を行いました。景観形成の基本目標に関わる主な意見について以下に示します。

A案（候補案）に関する意見

- ① 語尾の「いんざい」の表現を無くすと、どこでも該当する表現となり没个性的である。「いんざい」の表現を無くしても、印西市の心象景観が思い浮かべられるような標語にした方がよい。
- ② 「住みよさランキング5年連続1位」は重視すべきことである。

B案、C案（印西らしい自然や里山の重視）に関する意見

- ③ もともとある美しい自然景観と新しく作られた美しい都市景観が、互いに高め合いながら良くなるような標語がよい。
- ④ 他でアンケートを行うと印西市の良さとして「住宅地の近くに里山の緑があるにもかかわらず利便性が高い」という意見が必ず出る。
- ⑤ 印西市を特徴づける「自然」、「里山」の表現を盛り込むと、印西らしさがより際立つ。特に「里山」の方が印西らしさが出やすい。（「里山」に農地や集落、池等広義に捉えられる「里地」の表現も考えられる。（委員会後の委員意見）
- ⑥ 印西の特徴である「里地」と関連した用語には「ラーバン（都市（アーバン）+農村（ルーラル）」という表現がある。
- ⑦ 例示として「自然・里山、歴史と都市機能が調和した美しく住みやすいまち いんざい」等の類似例5案の提案を頂いた。（委員会後の委員意見）

その他の意見

- ⑧ 抽象的な主題でも、具体的な副題を設けて補完している事例はよくみられる。

第4回 印西市景観まちづくり市民懇談会 (平成28年7月15日)

- 庁内策定委員会の意見を踏まえて、当初設定していた景観形成の基本目標の修正案を3案作成し、ワークショップA～C班で意見交換を行いながら、基本目標I～III案に対して意見出し及び絞り込みを行いました。
- 各案に対する各班の主な意見及び案の絞り込みの結果について以下に示します。

①各案に対する各班の意見の整理

I案 「都市」「自然」「歴史」を水と緑がつむぐみんなのまち いんざい ～ひとりひとりがつくる美しくすみよいまち～

各案に対する各班の意見 (①～④⑧項目)	【A班】	【B班】	【C班】
	①かたいイメージ ②「歴史」びんとこない ③「歴史」を感じている	④「自然」と「水と緑」が重複している ⑤長すぎる。覚えやすいくらいの標語がよい ⑥シンプルな方がよい ⑦「調和する」や「共生する」の方がよい ⑧上位・関連計画の標語と差別化を図るために、「景観」の用語を入れた方がよい ⑨サブタイトルがさびしい	⑩木下駅周辺再開発 ⑪つなぐ・つむぐ・むすぶ ⑫カギカッコをとる「・」で良い ⑬歴史の共有化 ⑭「みんなでつくる」を入れる ⑮歴史が大事 ⑯みんな→すみつけたい ⑰河 ⑱つむぐが気になる ⑲ふれあう ⑳イメージができる ㉑メインとサブの矛盾 ㉒現実的

II案 豊かな自然と魅力ある都市がたかめ合う 美しくすみ続けたいまち いんざい ～里山・水辺と街・住まいが織りなす景観をみんなでつくる～

【A班】	【B班】	【C班】
⑲「自然」がよい ⑳「たかめあう」がよい ㉑「ふれあう」方がよい ㉒「高めあう」(漢字) ㉓住む、澄む、棲む ㉔印西らしさ「都市」と「自然」の関係を表現 ㉕みんなでつくる美しくすみ続けたいまち いんざい～みず・みどりとまちがたかめ合う(高め)景観づくり～(まち)	㉖里山周辺に車が駐車していることが多いので、里山を印西市の売りにしないでほしい ㉗「歴史」を入れた方がよい。サブタイトルに「歴史」をいれたらどうか	㉘よくばり、もりすぎ

III案 みんなでつくる 自然と都市がふれあう美しいまち いんざい ～みず・みどりとまちが共生するラーバンの景観づくり～

【A班】	【B班】	【C班】
⑳「ラーバン」は分かりにくい ㉑みんなでつくる共生 ㉒III案にII案の要素を入れて ㉓「みんな」が必要 ㉔「みんなでつくる」は必要 ㉕「旧市街地」にはラーバンを感じない	㉖印西市はもともと水から出発したまちみず→水里山→里地 ㉗みどり→里山 ㉘「歴史」を入れた方がよい ㉙「ラーバン」は浸透していない ㉚ラーバン→ふるさと	㉛「みんな」がよい ㉜「みず」と「みどり」漢字の方がよい ㉝ラーバンの説明 ㉞調和、きもち良い ㉟ラーバンの押し売り浸透していない

②各案に対する各班絞り込みの結果

- III案が2票※で最も多いという結果となりました。但し、C班ではI案を推す意見がかなり多かったことから、III案をベースにI案の要素を盛り込む方向で再検討しました。

案の絞り込み	【A班】	【B班】	【C班】
	III案 II案 ※ ※A班の案の絞りでは、II案、III案を推す意見が多かったが、「III案にII案の要素を入れる」という意見も出ていたことから、III案を主体にする事と捉えました	III案	I案

第5回 印西市景観まちづくり市民懇談会 (平成28年9月30日)

- 第4回懇談会の景観形成の基本目標の設定に向けたWSの案の絞り込みの結果を受けて、班の意見が最も多かったIII案をベースに、I案等の要素を含めて事務局で検討した結果以下のIII案改となりました。
- 主題では、「市の景観における将来像」の客観的な姿を示し、副題ではそれを実現するための「人の状況や行動の自主的な姿」を表現しました。

※赤字は懇談会の意見や事務局検討による修正箇所

III案改 (主題) みんなでつくる「自然」と「都市」がふれあう美しいまち いんざい (副題) ～水・里山・歴史につつまれ 美しくすみ続けたいまちへ～

修正事項の根拠

- 第4回懇談会における各班の絞り込みの結果を受けて、III案をベースとしました。
- ⑧の意見にあるように、「景観」という直接的な表現は用いていませんが、「景観」と同様の視覚的な表現として「美しい」を用いていました。
- ⑭⑯⑰⑱⑲の意見にあるように、「みんな(でつくる)」の表現を用いていました。
- ⑦⑱⑲⑳㉑で「調和する」、「共生する」、「ふれあう」、「たかめ合う」の表現に関する意見が出ましたが、印西市では「自然」と「都市」が近接し、身近にふれあっている様子が特徴的なこと、また、市内では公共施設(文化会館)や運行バスの名称にも「ふれあい」が用いられ、市民等に広く親しまれていることを踏まえベース案の通り「ふれあう」の表現を採用しました。
- ㉒㉓の意見にあるように、「自然」や「都市」の関係性の表現を用いていました。
- ⑤⑥⑲㉔の意見にあるように、できるだけ印西市の特徴をシンプルに表現するように努めました。
- I案の要素として、印西の特徴である自然と都市を強調するために、カギカッコをつけました。
- ㉖の意見にあるように、水の表現を用いています。また、㉗の意見を受けて、「みず」を漢字の「水」に表記しました。
- ㉘の意見を受けて、「みどり」を「里山」に表記しました。
- ㉙㉚㉛㉜の意見を受けて、「歴史」の盛り込みを検討しましたが、市の特徴は、㉝にあるように「都市」と「自然」の身近さ(関係性)であるため、「都市」・「自然」と並列の表現とせず、副題に「歴史」を盛り込みました。
- ㉞の意見から「つなぐ」「つむぐ」「むすぶ」の表現が出ましたが、印西市はニュータウンを中心に、自然(水・緑)に包まれている地形的な背景や、市内周囲に分布する寺社等の歴史資源があることから「つむぐ」の表現を採用しました。
- ㉟㊱㊲㊳の意見を受けて、「ラーバン」の表記を削除しました。
- ㊴㊵㊶の意見に加え、印西市総合計画「都市基盤」のまちづくりの基本目標5の説明内容文末で示す『…市民が「住み続けたい」と思える美しいまちを築いていきます。』の「定住性」を受けて、II案の「美しくすみ続けたいまち」を盛り込みました。また、基本目標の実現の方向性を表現するため、語尾に「へ」を盛り込みました。